

第8次調査の概要

どこを（調査場所）



赤線は平成23(2011)年3月8日に国指定された範囲

いつ（調査期間）

平成4(1992)年7月3日～8月5日

だれが（調査した人）

赤坂遺跡調査団

調査概要

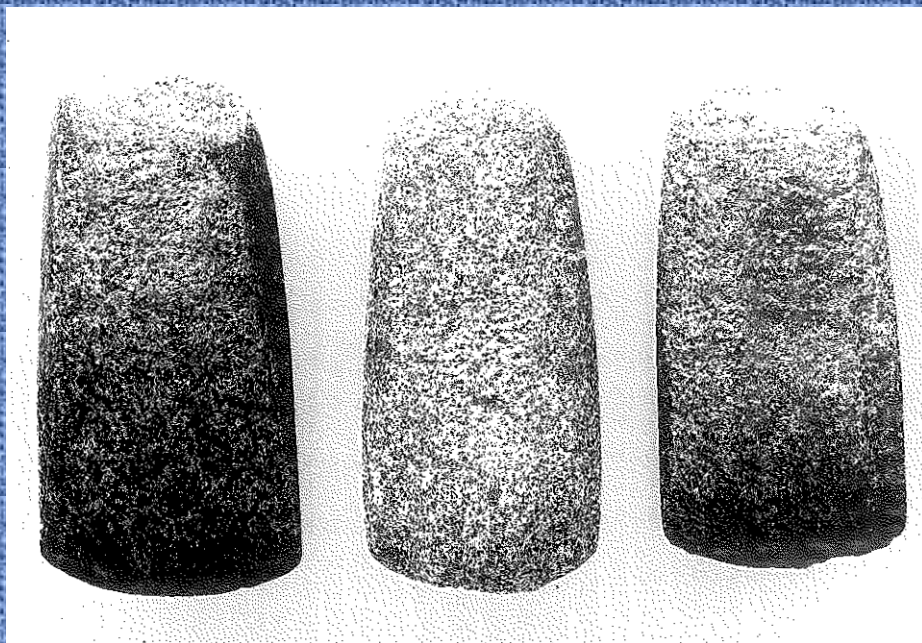
- 所在地 神奈川県三浦市初声町下宮田字赤坂481番、483番 1
調査面積 1,182㎡
調査原因 深耕事業(天地返し)に伴う調査
主な遺構 住居址7軒・土壇1基・貝塚
主な遺物 弥生土器(壺形土器・甕形土器・深鉢形土器)・磨製石斧・石鏃・石錘・骨製品・貝製品・獣骨・魚骨・貝類・種子
特記事項 住居址は切り合いもなく単独で検出され、宮ノ台期の住居址は長軸9mあるいは10mを超える大型の住居址である。本調査の最大の成果は、7号住居址内において発見された貝塚とそれに伴う多くの遺物のあり方である。弥生時代の貝塚自体、海蝕洞穴に残された貝塚以外には集落は、発見例は少なく、周囲の環境及び生業、食に対する嗜好などの面で、興味ある知見を得ることができた。(参考文献：『三浦市埋蔵文化財調査報告書第5集・2001年3月』)



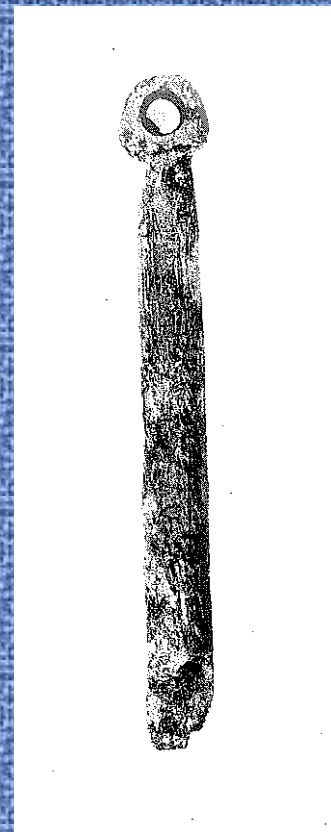
貝塚を伴う7号住居址の検出状況(出典：『三浦市埋蔵文化財調査報告書第5集・2001年3月』)



7号住居址より検出された貝塚の状況(出典：『三浦市埋蔵文化財調査報告書第5集・2001年3月』)



太形蛤刃石斧(出典：『三浦市埋蔵文化財調査報告書第5集・2001年3月』)



斧形骨製品
(かんざしと考えられている)
(出典：『三浦市埋蔵文化財調査報告書第5集・2001年3月』)